

# 日韓両国間の海峡等における鯨猟とその文化としての鯨料理

長崎県教育庁新幹線文化財調査事務所

村川 逸朗

東北アジア文化学会発表資料

2019年10月5日（土）

於；韓国釜慶広域市東亜大学釜民キャンパス国際館



## ▶ 栄養学からのアプローチ（縄文時代の昔から重要？現代も?!）

メタボリック・ドミノ

伊藤裕：日本医師会雑誌135；MS-5-ms-8,2006

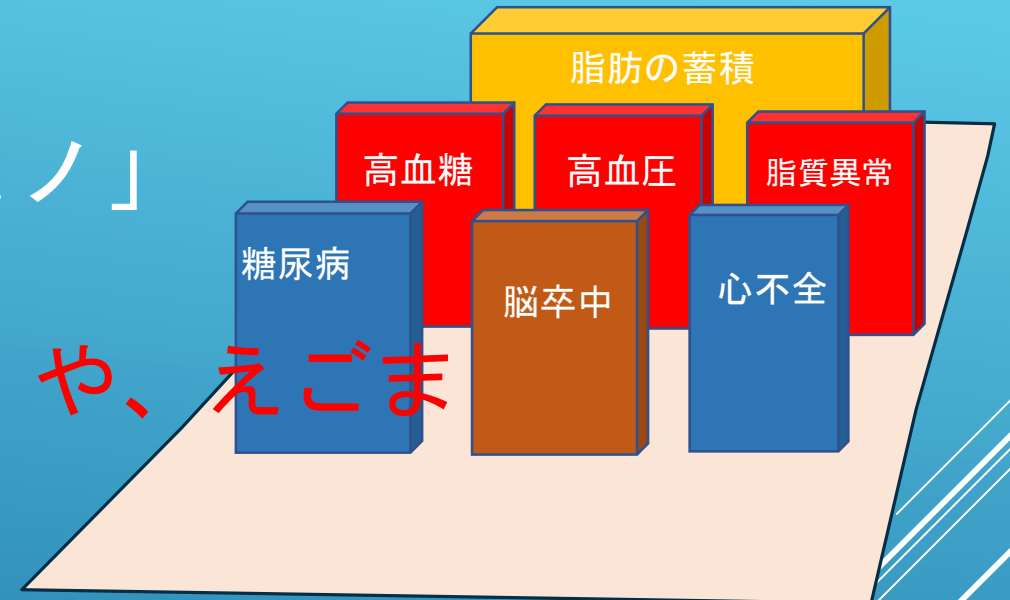
1. 現代人の脅威「メタボリック・ドミノ」

2. 私たちに必要な油とは？

・ 魚の油（アザラシ油やクジラの油）や、えごま油など「オメガ3脂肪酸」

3. 大事なものは摂取する油のバランス

4. 理想的だった？第二次世界大戦後の栄養事情（鯨等を摂取し油のバランスが良かった？）



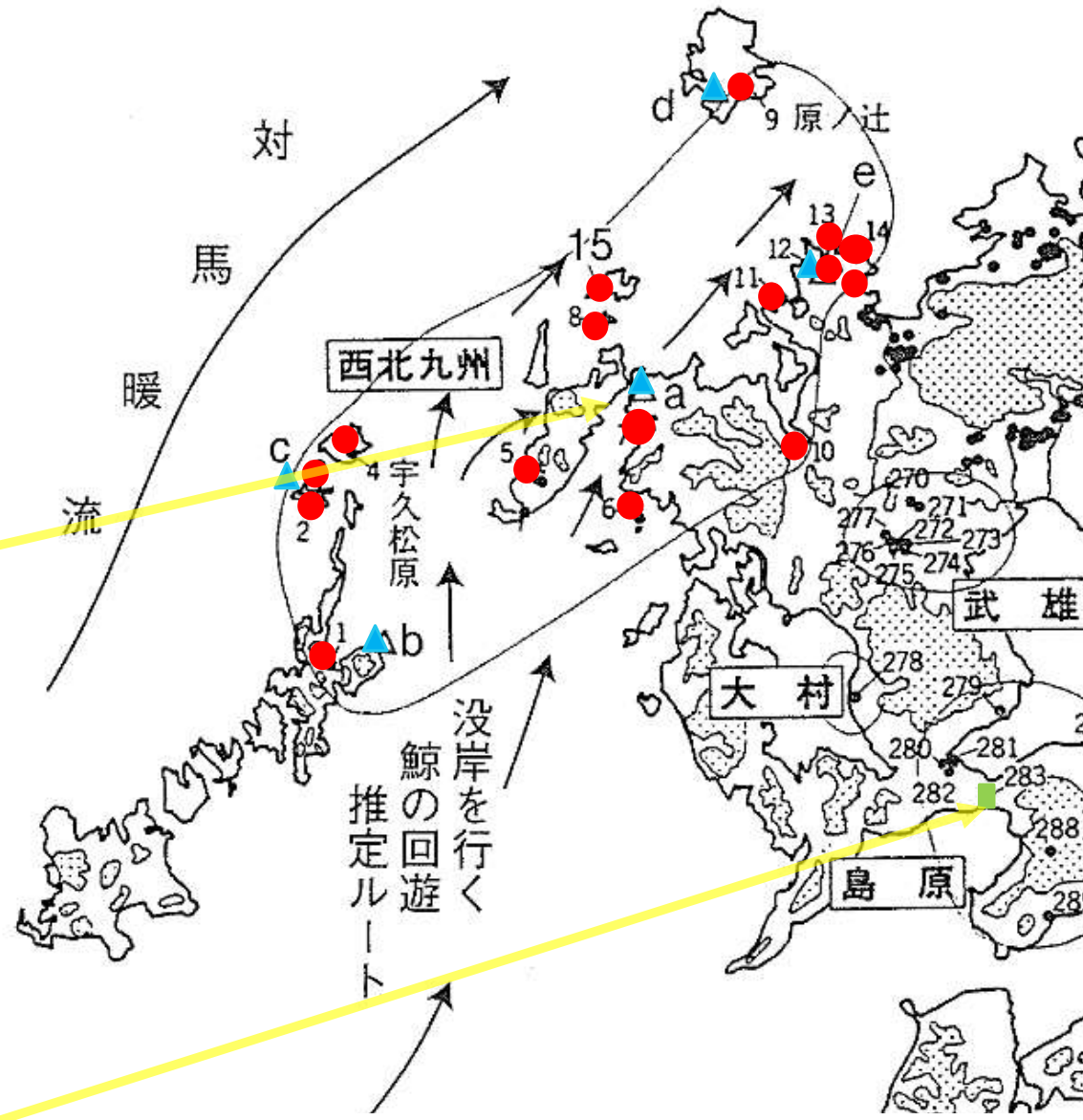
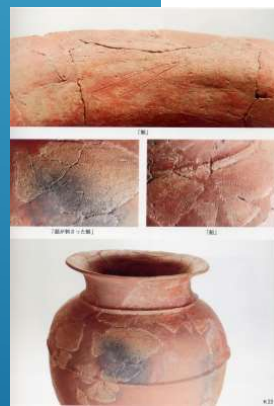
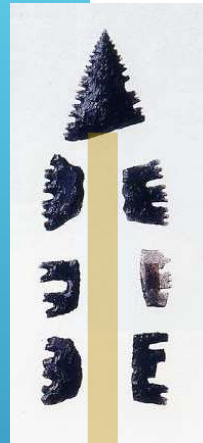
# 山の遺跡から海の遺跡へ



つぐめのはな遺跡  
(縄文時代早期後葉)



弘法原遺跡 (縄文時代早期中葉)



(弥生時代甕棺出土地●) 1: 浜郷 2: 笛吹 3: 殿寺 4: 宇久松原 5: 津吉 6: 宮ノ本 7: 大野台 8: 度島中学校運動場 9: 原の辻 10: 橋本 11: 押川 12: 鳥の巣 13: 大友 14: 鼓 15: 長畑馬場  
(縄文時代石鈺出土地△) a: つぐめのはな b: 頭ヶ島白浜 c: 殿崎 d: 鎌崎 e: 赤松海岸

第41図 西北九州地域における甕棺及び縄文時代石鈺出土地 (藤尾慎一郎1989) 挿図に加筆

# 山の遺跡；弘法原遺跡（縄文時代早期中葉）

山の遺跡；弘法原遺跡（縄文時代早期中葉）

標高は220～230メートル

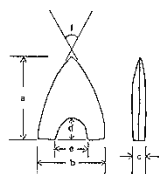
押型文（山型・格子目・楕円）土器

石鏃も大きくⅢ類に分類

石匙も形式変化が認められるので

石鏃と石匙はセット関係か？

(村川逸朗1983)



a 山型  
b 格子目  
c 楕円  
d 山型  
e 格子目  
f 先端角度

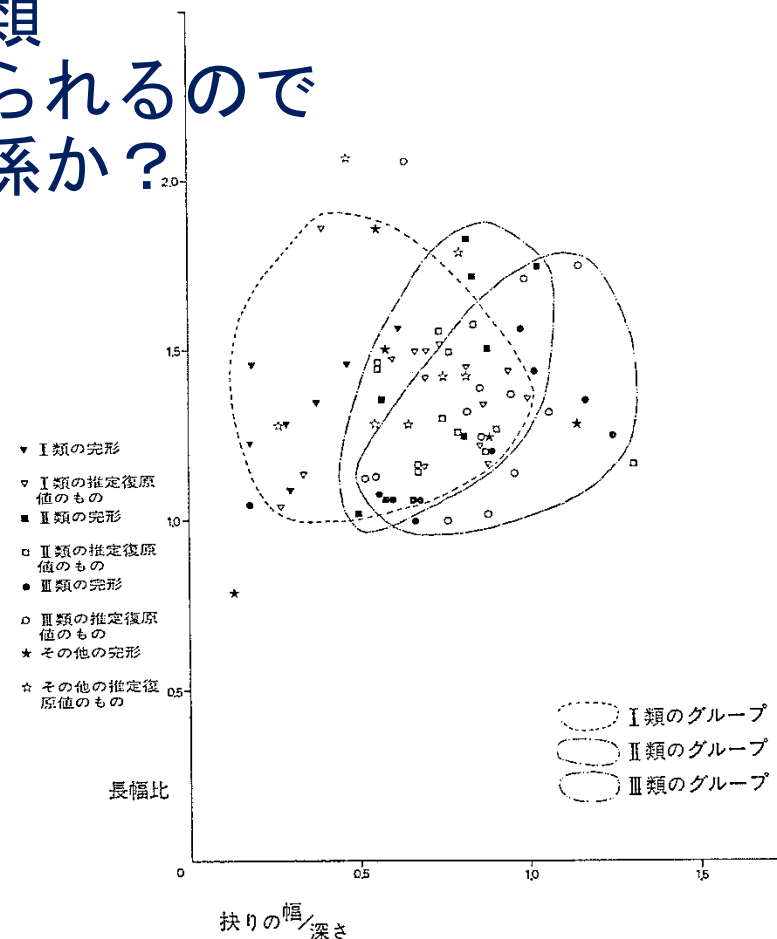
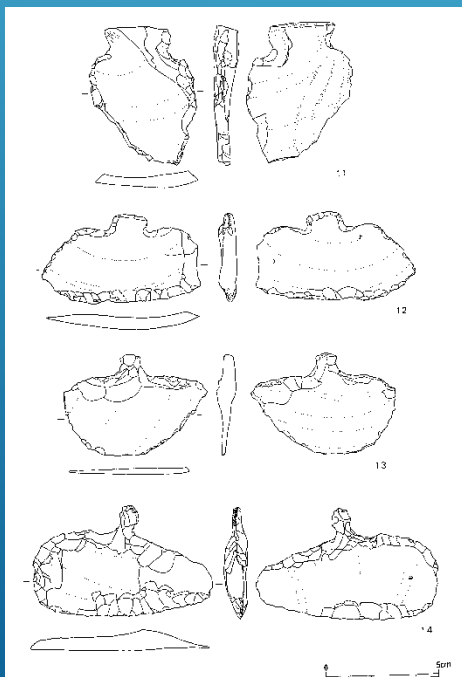
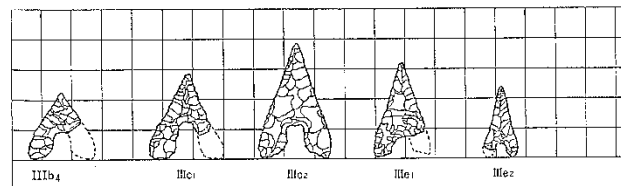
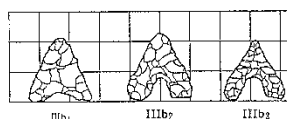
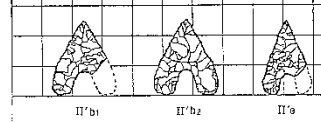
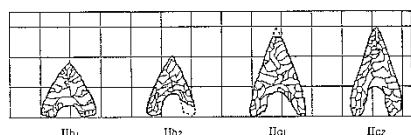
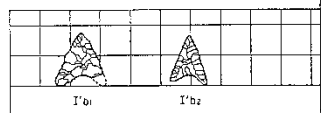
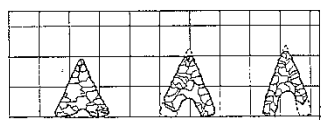
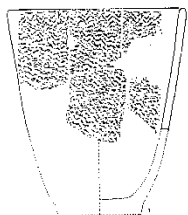
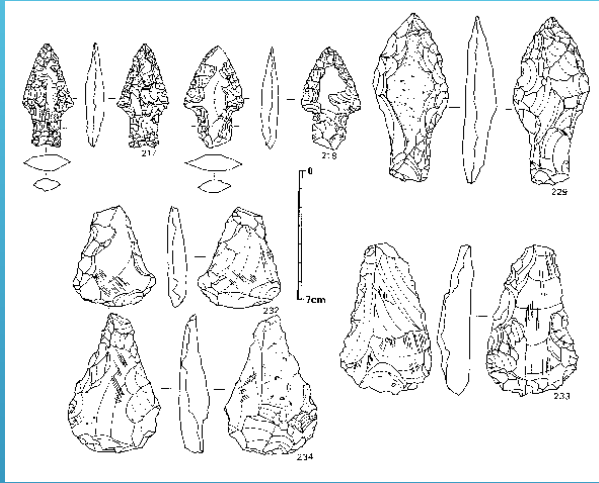


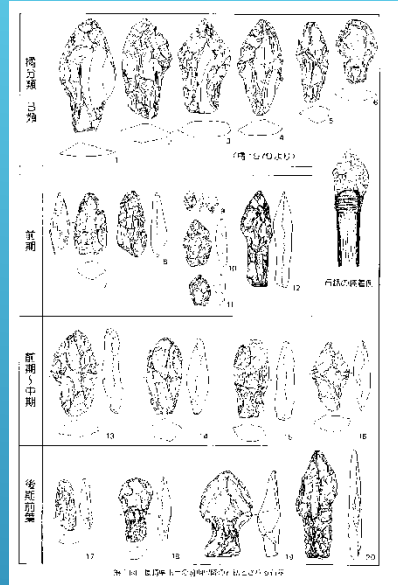
Fig. 85 長幅比，挟りの幅/深さ



# 自然環境の変化（海面変動）と『つぐめのはな遺跡』文化層形成との関係



つぐめのはな遺跡の石鋸とスクレーパーとの関係  
(村川逸朗1986)



弘法原遺跡  
(7,700BP)

※石鋸は後期前葉には姿を消す

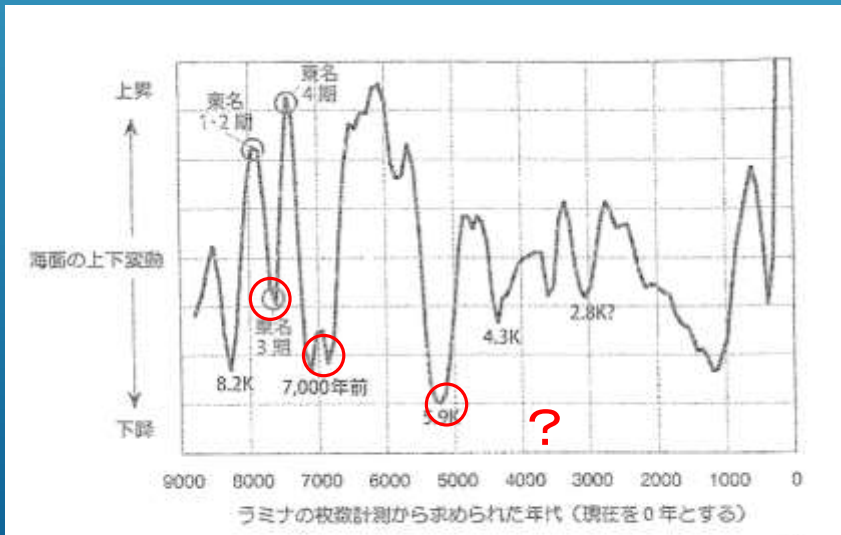


図4 水月湖の年縞堆積物からみた過去 8830 年間の海面変動

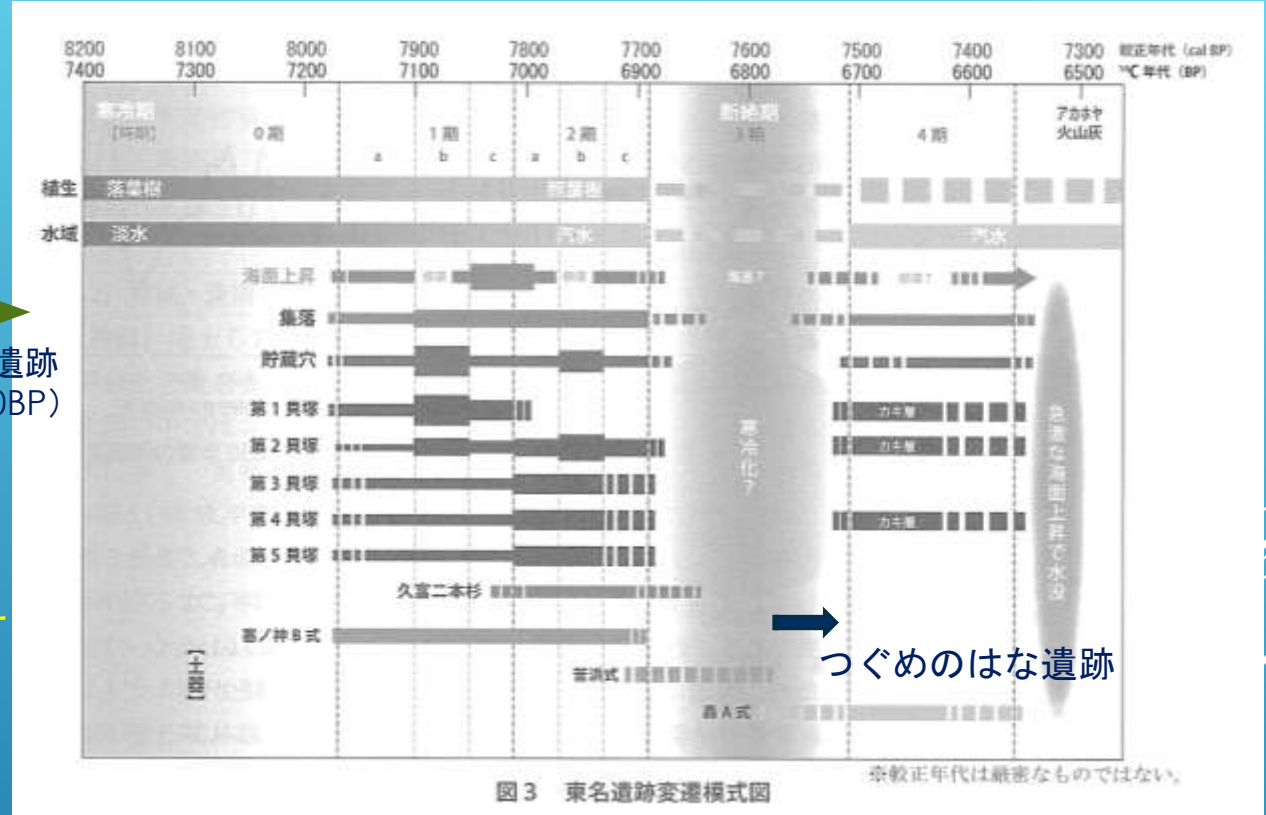


図3 東名遺跡変遷模式図

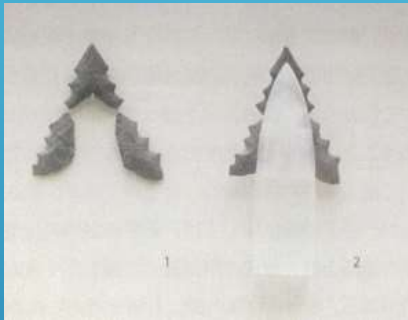
※校正年代は厳密なものではない。

自然環境の変化（海面変動）と『つぐめのはな遺跡』文化層形成との関係  
(西田巖2018)

# 縄文時代中期～後期の石鋸と鯨骨痕土器の分布



佐賀県唐津市  
徳蔵谷遺跡の  
石鋸



韓国文岩里遺跡の石鋸



10 クジラ椎端板の内側面：対馬市佐賀貝塚出土。椎体の両端（頭側面と尾側面）には円板状の骨が附着している。若い個体では椎端板が椎体から遊離している。椎端板の内側面（椎体と接していた面）には月面のクレーターのよう凹凸がある。この椎端板のことを「椎間板」と思っている人がいるが、解剖学用語の「椎間円板 (intervertebral disc)」とはまったく別のものであることに注意していただきたい。椎間円板は軟骨性なので、さらした骨では残らない。(対馬市教育委員会蔵)

11・12 黒橋貝塚出土クジラ底土器とその底面拓影（熊本県教育委員会蔵・提供）

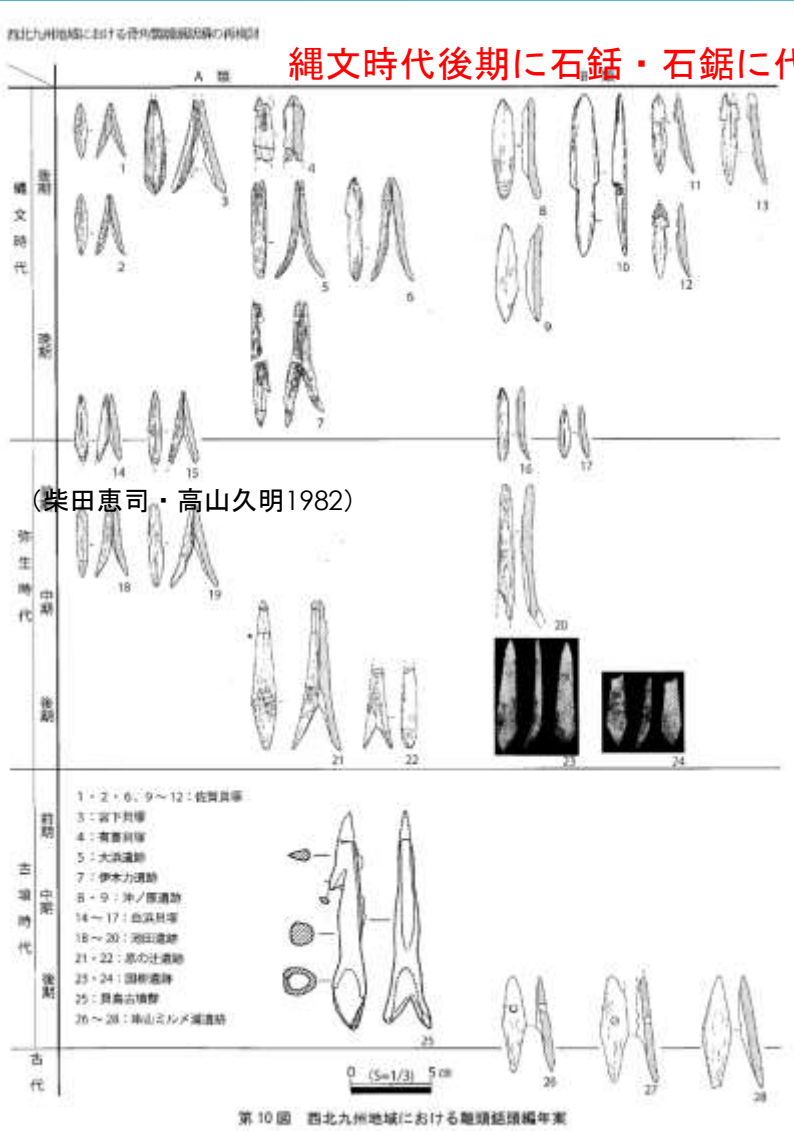


第1図. 鯨底土器出土遺跡分布図 (山崎純男2014)

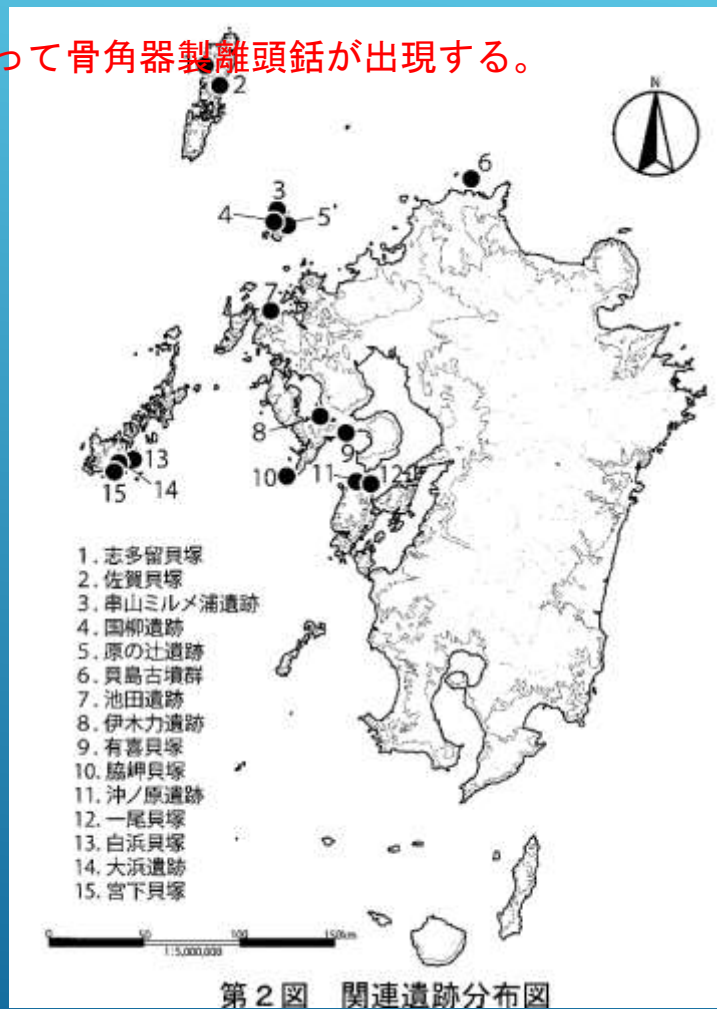


# 西北九州における離頭銛の編年と使用方法

縄文時代後期に石銛・石鋸に代わって骨角器製離頭銛が出現する。

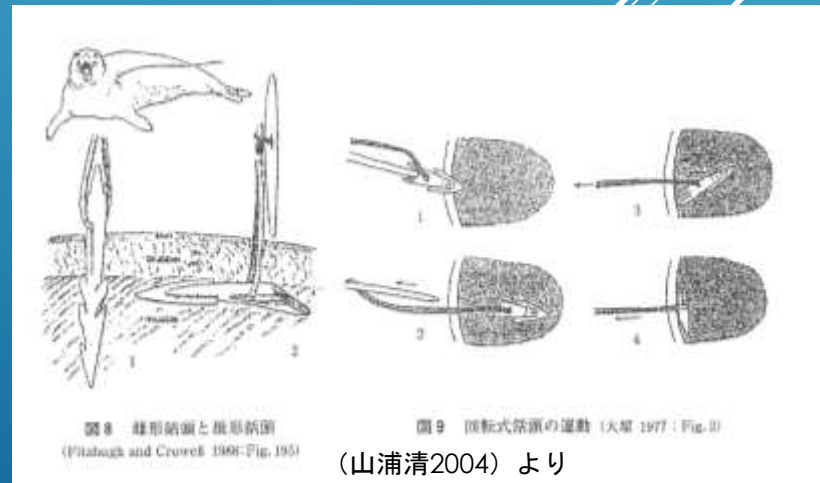


(柴田恵司・高山久明1982)



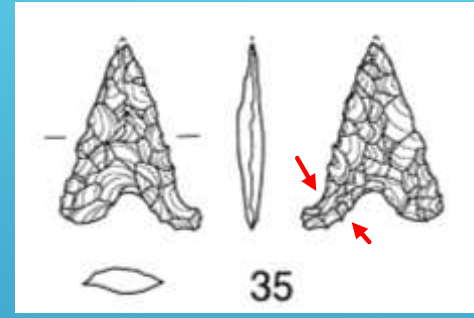
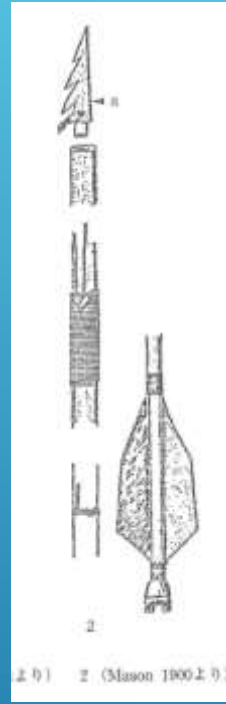
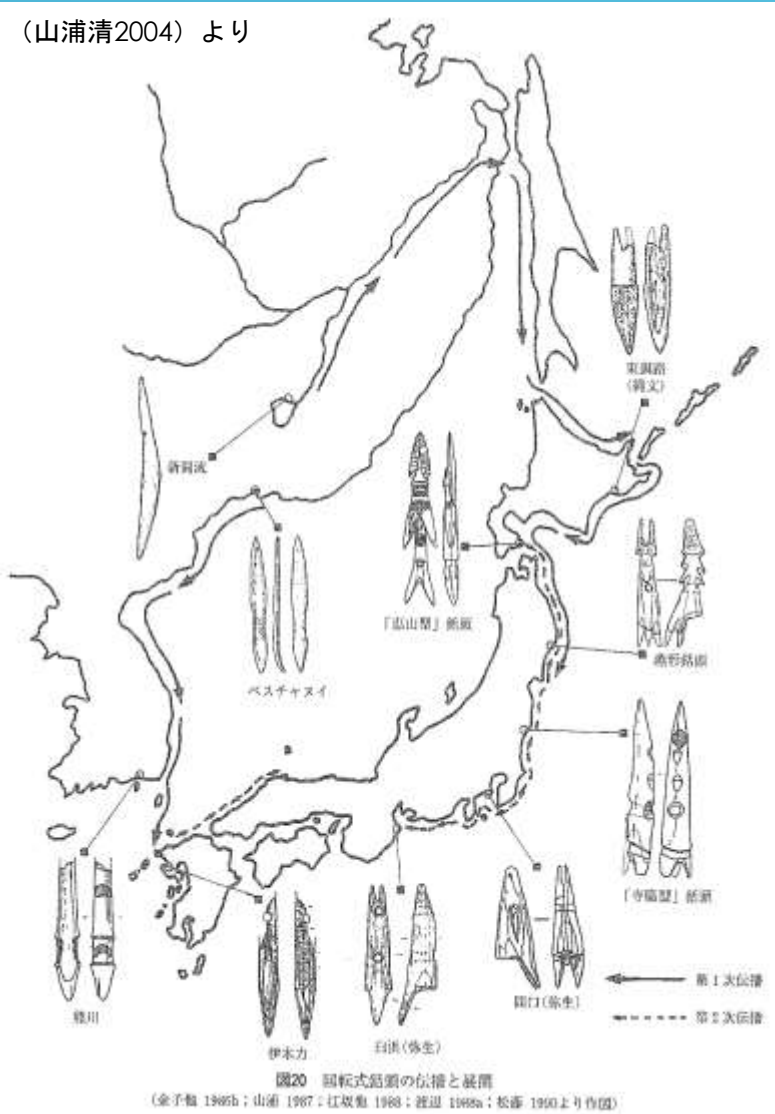
1. 志多留貝塚
2. 佐賀貝塚
3. 串山ミルメ浦遺跡
4. 岡柳遺跡
5. 原の辻遺跡
6. 貝島古墳群
7. 池田遺跡
8. 伊木力遺跡
9. 有喜貝塚
10. 脇柳貝塚
11. 沖ノ原遺跡
12. 一尾貝塚
13. 白浜貝塚
14. 大浜遺跡
15. 宮下貝塚

編年表と分布図、復元案は中尾篤志氏作成

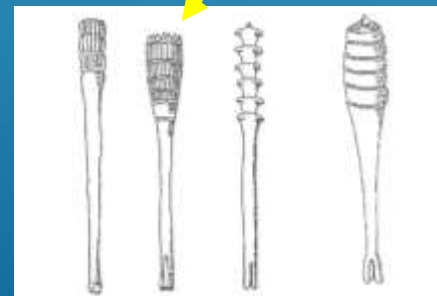
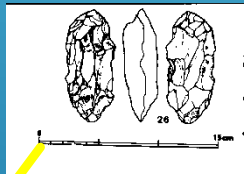


# 回転式離頭銛の伝播と展開及び紐を利用する猟の起源

(山浦清2004) より



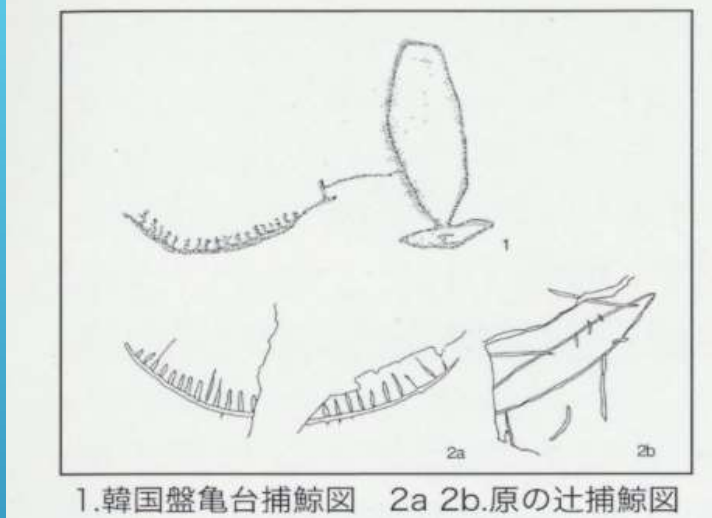
縄文時代前期後葉の一里松遺跡出土の異形石鏃



(アルレット・ルロワ=ゲーラン、  
 アンドレ・ルロワ=ゲーラン  
 1938) より

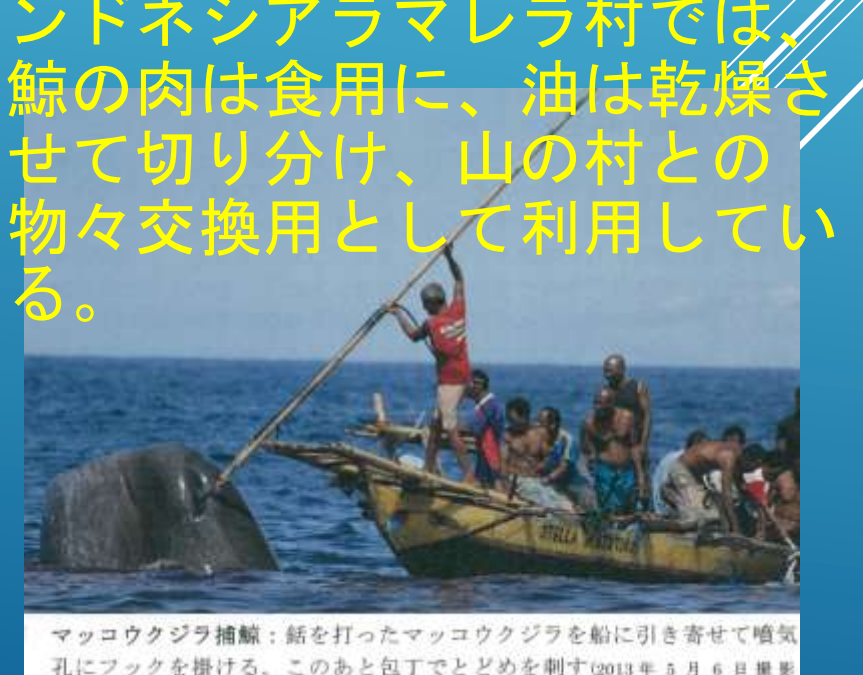
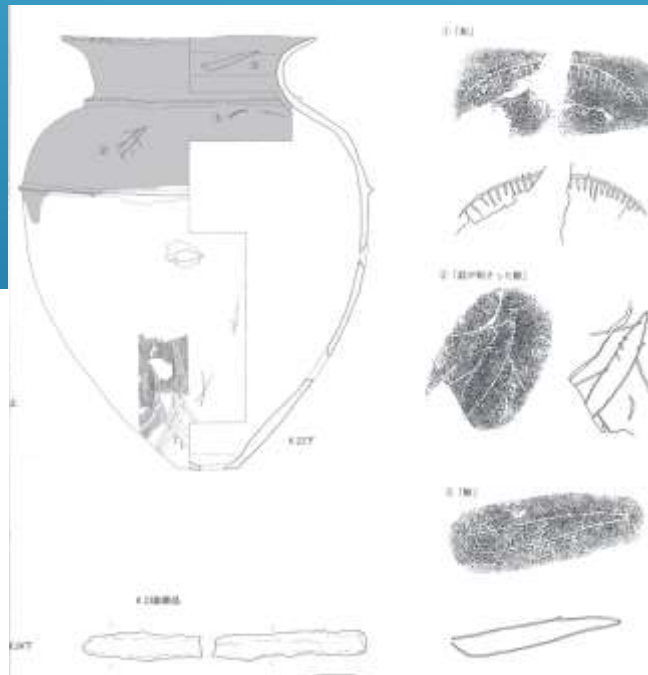
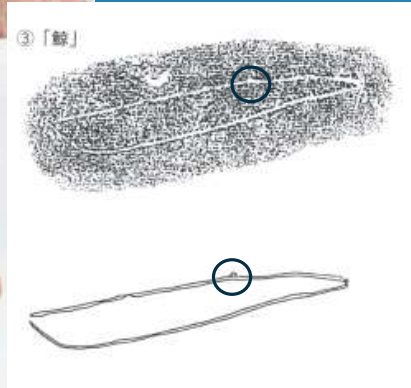


# 韓国盤亀台捕鯨図と原の辻捕鯨図



(江上幹幸・小島曠太郎2014他) より

現在でも鯨猟を行っているインドネシアラマレラ村では、鯨の肉は食用に、油は乾燥させて切り分け、山の村との物々交換用として利用している。

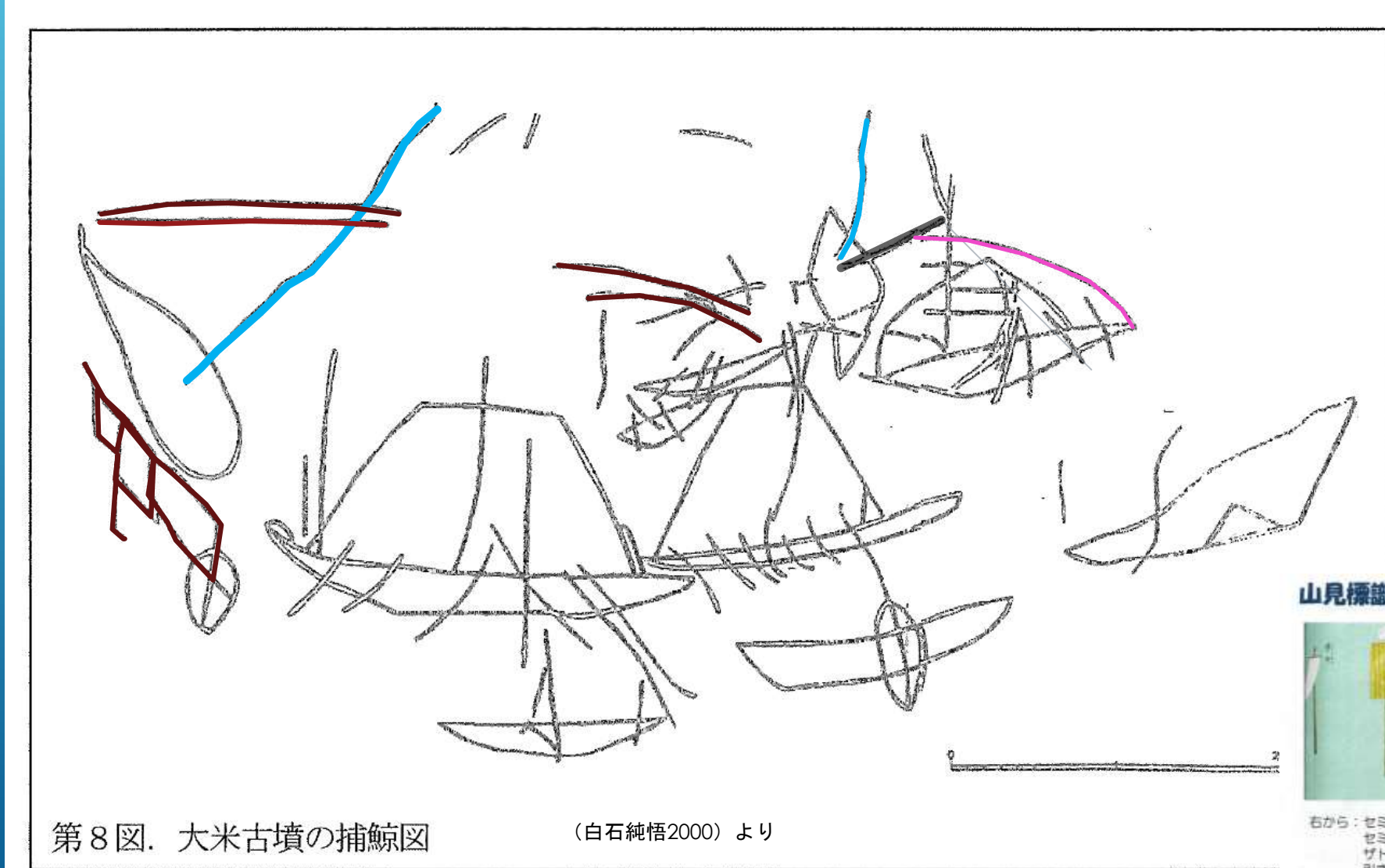


マッコウクジラ捕鯨：鉾を打ったマッコウクジラを船に引き寄せて噴気孔にフックを掛ける。このあと包丁でとどめを刺す(2013年5月6日撮影)

# 壱岐市大米古墳壁画の解釈について

山崎純男氏による解釈

- ・潮吹きとみれば親子鯨
- ・小さいほうに刺さっているのは鉈ではないか
- ・（鉈が船とつながっている）
- ・格子状のものと二本の線は網ではないか。・これは中・近世捕鯨も同じ。
- ・この方法が古墳時代後期には行われていた。



第8図. 大米古墳の捕鯨図

(白石純悟2000) より

村川による故阿比留義博氏からの聞き取り

- ・「かわいそうな話だが一番の獲物は親子連れの鯨。子供を捕まえば母親は逃げないので母鯨も捕獲できる」。
- ・鯨墓を作るのも贖罪の意味があるのではないだろうか。

## 山見標識の種類



右から：セミクジラの子持ち  
セミクジラ  
ザトウクジラの子持ち  
引き寄せ  
標

(富加見泰彦2014)

# 一般的な鯨料理の例



じゃが煮鯨  
作り方



湯かけ鯨



①くじらの塩を洗い落とす



②沸騰した湯で15秒程ゆがく



③ザルにあげる



④鯨を砂糖、醤油等で炒める



⑤野菜を入れ、酒など調味料を足し、だし汁を入れて、煮詰めて出来上がり



## まとめ

- ・リマン海流を利用した北方文化の伝搬により韓国東海岸から南海岸、日本の西北九州へと石鋸・石銛等を利用したアザラシ・鯨等の捕獲技術が伝わった。
- ・縄文時代後期に石鋸・石銛から骨角器による銚へと変わった。
- ・弥生時代中期には船を利用してマッコウ鯨等を捕獲していた。
- ・韓国蔚山の盤亀台遺跡の捕鯨図をみると鯨と船とが紐状のもので繋がっているのがわかる。
- ・古墳時代後期には親子鯨の習性を利用した複数の船による組織的な鯨漁がおこなわれていた。
- ・油摂取のバランスを取るために西北九州及び九州西側半分では鯨等で補っていた。
- ・第二次世界大戦後の栄養不足時には、鯨によりタンパク質と油のバランス（**オメガ3脂肪酸**）よく摂取していた。

### 【引用・参考文献】

江上幹幸「インドネシア、ラマレラの伝統捕鯨文化と社会変化」『海の狩人』寒暖流の考古学Ⅱ（第5回海洋考古学会資料集）海洋考古学会・福岡大学考古学研究室2014

富加見泰彦「紀伊半島における近世クジラ漁」『海の狩人』寒暖流の考古学Ⅱ（第5回海洋考古学会資料集）海洋考古学会・福岡大学考古学研究室2014

福井淳一「釧路周辺の銚頭と海獣猟の変遷」『海の狩人』寒暖流の考古学Ⅱ（第5回海洋考古学会資料集）海洋考古学会・福岡大学考古学研究室2014

山崎純男「九州における先史～古代の捕鯨に関する資料」『海の狩人』寒暖流の考古学Ⅱ（第5回海洋考古学会資料集）海洋考古学会・福岡大学考古学研究室2014

西田巖「東名遺跡からみえる縄文時代早期の環境変動と文化の変容」『九州縄文時代早期後葉の文化』一平椋式・塞ノ神式併行の土器を中心に一（第28回九州縄文時代研究会佐賀大会発表要旨資料集）九州縄文研究会2018

村川逸朗「石鏃」『弘法原遺跡』吾妻町文化財7（長崎県吾妻町教育委員会1983

村川逸朗「石器」『長崎県埋蔵文化財調査集報Ⅹ』長崎県文化財調査報告書第82集 長崎県教育委員会1986

山浦清『北方狩猟・漁労民の考古学』同成社2004

川道寛「石銚と鋸齒尖頭器の二者」～縄文時代石製漁労具の諸相～『長崎県埋蔵文化財センター研究紀要』第3号2013

柴田恵司・高山久明「古代人の航海術対馬海峡渡海趣味レーション」『月間考古学ジャーナル12月号』№212、1982

アルレット・ルロワ＝グーラン、アンドレ・ルロワ＝グーラン『アイヌへの旅』一北海道1938一山中一郎訳大阪文化K年九回

白石純悟2000『大米古墳一町内遺跡発掘調査報告書Ⅱ』郷ノ浦町文化財調査報告書 第2集

中尾篤志「西北九州地域における骨角製離頭銚の再検討」『高野普司追悼論文集』2015